

科目名 (英)	保健 I Health	年次	1	実務経験	担当	氏家由美
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容師やヘアメイクアップアーティストとしての実務経験と保健の教員免許を持つ講師がわかりやすく講義をする					
目的 科目概要	美容師として必要な基礎知識である保健学を学び、お客様にどのような関わりがあるのかを学ぶ。					
到達目標	人体及び皮膚の構造と機能について理解する。美容師国家試験に合格できるような基礎知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験					
教科書	日本理美容教育センター発行「保健」	事前事後 学習と その内容	重要項目である章についてはまとめプリントにて復習していく。			
教材	教科書及び適宜DVDなど					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	保健学概要及びオリエンテーション	講師経歴等自己紹介、保健学を学ぶことの重要性を知る。国家試験についての導入
2	人体の構造及び機能第1章	頭部、顔部、頸部の解剖学☆人体各部の名称
3	皮膚科学第1章皮膚の構造	皮膚の構造☆美容師の業務で関係の深い皮膚及び付属器官について理解する。
4	皮膚科学第1章皮膚の構造	皮膚の構造☆美容師の業務で関係の深い皮膚及び付属器官について理解する。
5	皮膚科学第1章皮膚の構造復習	皮膚科学第1章まとめプリント(記述式)にて復習☆解答解説
6	皮膚科学第2章皮膚付属器官の構造	皮膚付属器官の「毛」について学ぶことで美容師に必要な全ての毛について理解する。
7	前期中間試験	人体学第1章&皮膚科学第1～2章「毛」までの範囲(20問)解答解説により理解力を高める。
8	皮膚科学第2章皮膚付属器官の構造&皮膚の循環器系と神経系	皮膚付属器官の構造☆立毛筋、脂腺、汗腺について。第3章皮膚の循環器系と神経系を理解する。
9	皮膚科学第1～2章復習	皮膚と付属器官についてのまとめプリント作成及び解答解説にて理解を深める。
10	皮膚科学第4章皮膚と付属器官の生理機能	皮膚と付属器官の生理機能について。特に対外保護作用や薬剤に対する作用については深く学ぶ。
11	皮膚科学第4章皮膚と付属器官の生理機能	皮膚と付属器官の生理機能のまとめプリント作成及び解答解説にて理解を深める。
12	皮膚科学第5章皮膚と付属器官の保健	皮膚と付属器官の保健「毛とホルモン」まで。ホルモンバランスと毛の作用は特に重要なので詳しく学ぶ。
13	皮膚科学第5章皮膚と付属器官の保健	皮膚と付属器官の保健「子どものおしゃれによるトラブル」まで。特に皮膚疾患と原因についての組み合わせは一覧表と皮膚疾患模型で理解を深める。
14	前期定期試験	前期定期試験皮膚科学第1～5章(25問)
15	前期定期試験フィードバック	前期定期試験、解答解説、誤文訂正をし自分の苦手な項目を克服する。

科目名 (英)	衛生管理 I Hygiene management	年次	1	実務経験	担当	渡邊 隆
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問ずつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習		
教材	都度					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	この科目がなぜ必要かまた授業の進め方について説明する
2	公衆衛生の概要と歴史	公衆衛生とはどういうものでありまたそのなかでの歴史上の人物について学ぶ
3	美容師と公衆衛生、保健所について	美容師がどのように公衆衛生に係りやその最前線にある保健所の業務や素子について学ぶ
4	母子保健、成人保健 その1	子供や母親についての統計学的数字や生活習慣病などの成人についての保健を学ぶ
5	成人保健 その2	生活習慣病について具体的な例や統計学的数字を学ぶ
6	老人保健と福祉精神保健	高齢化社会における保険制度や心の病についての問題点などを学ぶ
7	中間試験	公衆衛生全範囲
8	環境衛生の目的と意義、空気と健康	環境衛生とはどういうもので、その中の空気の役割について学ぶ
9	温度、湿度、気流と健康	温度や湿度、気流と我々の関わりについて学ぶ
10	衣服と住居の衛生	衣服の意義や役割、窓や照明、冷暖房などの役割を学ぶ。
11	上下水道と廃棄物	上下水道の供給、ゴミやし尿の処理について学ぶ
12	衛生害虫とネズミ 環境保全	衛生害虫やネズミの影響や美容師が環境の破壊を起こさないようにする為の環境保全について学ぶ
13	第5篇 美容所における衛生管理要領	美容師法よりもより詳しい美容所の管理運営についての管理要領について学ぶ
14	振り返り・定期試験	1～13回の振り返り、質疑応答、定期試験
15	定期試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	美容技術理論 I	年次	1	実務経験	担当	鈴木由美子
	Beauty technology theory	授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1		曜日・時間	
講師紹介	美容師免許・美容技術理論教員資格有・コスメコンシェルジュ・化粧品成分検定上級スペシャリスト・日本ウェディングスタイリスト協会(JWSA)認定講師。長きにわたり美容業界に携わる講師が、現場での実体験を交えながら理論をわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる技術の理論、取り扱う器具、薬剤知識を学ぶ。					
到達目標	実際に学ぶ実技授業の理論・知識を習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容技術理論 I・美容技術理論 II		事前事後 学習と その内容			
教材						
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					
<b>授 業 計 画</b>						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	序章 美容技術理論をまなぶにあたって(P4～13)	技術を学ぶにあたって必要な人体の名称や姿勢等を理解する。				
2	第1章 美容用具(P14～33)	技術で使用する用具等を覚える。				
3	第2章 シャンプーイング(P34～48)	シャンプーの目的・種類・成分等				
4	第2章 シャンプーイング(P49～63)	リンス・コンディショナー・トリートメントの種類等・スカルトリートメント・ヘッドスパ				
5	第4章 ヘアカットイング(P86～103)	美容刃物・姿勢・ブロッキング・カットの基礎理論				
6	第4章 ヘアカットイング(P104～124)	ベーシックなカット技法・シザーズ、レザーによるカット技法				
7	中間試験	試験範囲(序章・第1章・2章・4章)				
8	第5章 パーマネントウェービング(P126～137)	パーマの歴史・理論・種類				
9	第5章 パーマネントウェービング	パーマ剤に関する注意事項・技術・バリエーション・縮毛矯正				
10	第7章 カラーリング(P220～232)	カラーリングの理論・種類・メカニズム・色の基本・毛髪のレベルとアンダートーン				
11	第7章 カラーリング(P233～243)	パッチテスト・道具、技術手順				
12	第10章 メイクアップ(P72～88) 美容技術理論 II	メイクアップの基礎知識・色彩・道具・スキンケア				
13	第10章 メイクアップ(P88～103) 美容技術理論 II	ベースメイク・アイメイク・アイブロウ・リップ・ブラッシュオン				
14	定期試験	試験範囲(第5章・第7章・第10章)				
15	振り返り・定期試験解説	振り返り・定期試験解説				

科目名 (英)	美容実習 I シャンプー Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	井上秀浩、青柳光子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	①美容師として渋谷、表参道等を拠点とし様々なヘア雑誌の撮影やTV出演、海外での講師活動等美容師の可能性を追求する。また近年では、後世の育成に力を注ぐ。②海外に拠点を移し約10年間に渡り美容業に携わりその経験を生かし日本で出店を果たす。緻密な計算のカットは特に癖毛等コンプレックスを解消することで絶大な信頼を得る。					
目的 科目概要	技術と知識の向上を意識し、よりサロンワークなどに用いられる技術の習得でき、社会人としてのマナーや意識も持つ事が出来る。					
到達目標	アシスタントとしての基本技術をシャンプーを軸に様々な技術を習得が出来、接客業の基本的な意識やマナーを身に付ける事が出来る、仕事としての不安を解消し自信を持って挑む事ができる。美容業の楽しさや難しさ今の美容業界の今までと現状を知る事によりモチベーションを上げる事が出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験    ■ 実技試験    ■ 作品					
教科書	美容技術理論 I		事前事後 学習と その内容	まずはマニュアルによる手の動き方をしっかり覚え、どのように動かしていくかを習慣にする。		
教材	適宜紹介する(動画、静止画等)					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	授業目標の確認(授業に対しての注意事項)	接客について、清掃の大切さを知ることができる。コミュニケーション、接客について(挨拶や身だしなみ、表情を考える)今のサロンの状況知る事が出来る、清掃の大切さ、マッサージを習得出来る
2	器具等、取扱いの説明	シャンプーの一連の動作を理解しそれぞれのシャンプー台の器具の扱いも理解出来る様になる。(タオル、クロス等のたたみかた、基本姿勢、お客様への声かけ等)
3	プレーンリンスの施術(展示、実践)	プレーンリンスの手順を理解し施術が出来る様になれる。コーミング、タオルターバン施術の仕方と理由を理解することが出来る。
4	プレーンリンスの復習、1シャンプーの展示、実践	前回の復習と1シャンプーの手順を理解し施術が出来る様になれる。コーミング、タオルターバン施術の仕方と理由を理解することが出来る。
5	お客様としての1シャンプーの実践	お客様を想定して、声かけ、プレーンリンス、1シャンプー、コーミング、タオルターバン、一連の動作をスムーズに施術できる様になれる。
6	シャンプーの理解度を深める、ドライの仕方の展示	お客様を想定して、今までの復習し細かい所までを追求できる。ドライの基本的な考え方や施術の仕方を理解度を深める。
7	中間試験(プレーンリンス、1シャンプー、ドライ)	お客様としての意識でのプレーンリンス、1シャンプーを25分、ドライを30分で施術することが出来る。
8	ドライ、ブローの基本的な理論を知る	基本的なドライ方法、手順とブローの理論と手順を理解し施術が出来る
9	(A)サイド、シャンプーブロー(B)バック、プレーンリンス展示	A,Bグループ編成し A,1シャンプー、ドライ、ブロー、ご案内の仕方、B,プレーンリンスを習得できる
10	(B)サイド、シャンプーブロー(A)バック、プレーンリンス展示	A,Bグループ編成し B,1シャンプー、ドライ、ブロー、ご案内の仕方、A,プレーンリンスを習得できる
11	(A)サイド、技術の精度を上げる(B)バック、1シャンプー展示	A,B編成し A,1それぞれの技術のレベルを上げる、B,1シャンプーを習得できる
12	(B)サイド、技術の精度を上げる(A)バック、1シャンプー展示	A,B編成し B,1それぞれの技術のレベルを上げる、A,1シャンプーを習得できる
13	A,Bそれぞれに時間を意識しての施術	サロンワークを意識して役割分担と時間の管理をしながら施術する
14	A,Bそれぞれに時間を意識しての施術	サロンワークを意識して役割分担と時間の管理をしながら施術する
15	定期試験(サロンワーク、1シャンプー、ドライ、ブロー)	お客様として誘導やプレーンリンス、1シャンプーを25分、ドライ、ブロー、スタイリングを40分で施術することが出来る。チームワークを考え自分の役割を理解し行動出来るようになる。

科目名 (英)	美容実習 I カラーリング Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	井上秀浩、青柳光子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	①美容師として渋谷、表参道等を拠点とし様々なヘア雑誌の撮影やTV出演、海外での講師活動等美容師の可能性を追求する。また近年では、後世の育成に力を注ぐ。 ②海外に拠点を移し約10年間に渡り美容業に携わりその経験を生かし日本へ出店を果たす。緻密な計算のカットは特に癖毛等コンプレックスを解消することで絶大な信頼を得る。					
目的 科目概要	ヘアカラー基礎知識の習得と様々な技術などを通してアシスタントとしての実践力を鍛えられる。					
到達目標	ヘアカラーの基本的知識とあらゆる技術のベースとなる適切な手順や塗布技術例などの基礎技術を理解し習得する事が出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書	美容技術理論① 美容実習① カラー教材1式			事前事後 学習と その内容		
教材	適宜紹介する(動画、静止画等)					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	カラーの基礎知識	カラーの基礎となる。道具、種類やタイプ別、メカニズム、等理解する事が出来る。(注意事項を確認し事故起こらない状況を作る事が出来る)
2	カラー剤の塗布の相違	練習用トリートメントで塗布の練習をし、1タッチ、2タッチ、3タッチの違いを理解し施術出来る様になれる。
3	1タッチの塗布の仕方	ウィッグを用いて1タッチの施術内容の理解と塗布の仕方を理解して出来る様になれる。(ブリーチ)
4	2タッチの塗布(毛先)	ウィッグを用いて2タッチの施術内容の理解と塗布の仕方の理解をして出来る様になれる。(ブリーチ)
5	2タッチの塗布(根元ぼかし)	ウィッグを用いて2タッチの施術内容の理解と塗布の仕方の理解をして出来る様になれる。(ブリーチ)
6	ホイルワーク①(スライシング)	ウィッグを用いてスライシングの効果や塗布の仕方等を理解して施術が出来る様になれる。
7	定期試験 2タッチ	ウィッグを用いてお客様としての想定で2タッチが塗布でき仕上げる事が出来る。
8	ホイルワーク②(ウィーピング)	ウィッグを用いてウィーピングの効果や塗布の仕方等を理解して施術が出来る様になれる。
9	ホイルワーク③(バレイヤージュ)	ウィッグを用いてバレイヤージュの効果や塗布の仕方等を理解して施術が出来る様になれる。
10	カラー剤の相違(彩度)	ウィッグを用いて異なる彩度持つカラー剤を塗布し彩度の違い等の理解を深める事が出来る
11	カラー剤の相違(明度)	ウィッグを用いて異なる明度持つカラー剤を塗布し彩度の違い等の理解を深める事が出来る
12	カラー剤の相違(酸化染毛剤と酸化染毛料)□	ウィッグを用いて異なるカラー剤を塗布し彩度、明度、塗布の仕方違い等の理解を深める事が出来る。
13	デザイン ①	デザインシートにイメージを書き込み使用する薬剤の選定していき創造力を養う事が出来る。
14	デザイン ②	ウィッグを用いてデザインシートを元に実際にカラーリングをほどこしイメージとあっているかの修正をする。
15	定期試験	これまでのカラー授業の技術を用いてカラーリングをする

科目名 (英)	美容実習 I カット Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	坂平克成 本城美実
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	美容室経営23年講師歴9年現場の技術を実践者をもって指導、まず見て観て感じてもらう授業を意識して魅力ある授業を毎回心がけ一人一人フラットに生徒と接し美容の楽しさやりがいを指導し美容に進んでよかったと思えるように卒業してもらいたい					
目的 科目概要	この科目ではヘアカットブローの基礎基本理論を習得し人間の持つ頭髪の特徴を生かし理解しニーズに対応したデザインを表現しヘアデザインを通して夢と希望を与えられる事					
到達目標	自分の考えるデザインが形に出来ること、リクエストに応じたデザインが形に出来ること、技術の引き出しを持つこと、100のデザインをレッスンするより100のデザインを生み出す一つの公式を得ること後期はさらに前期の勉強した理論技術をアウトプットしてさらに技術の貯金を殖やすこと					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容技術理論	事前事後 学習と その内容	毎回の授業で5個覚えることがあって例えば2個理解できないとしたら次回の授業で必ず理解できるようにする			
教材	適宜紹介する					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	ロングレイヤーカットブロー	頭皮からの角度パネルの持ち方姿勢を把握してレイヤースタイルの髪の動きシルエットをつかむ
2	レイヤーカットブロー	ロールブラシを使ってボリューム動き流れを出しバランスの良いシルエットを作る
3	ミディアムレイヤーカットブロー	ブローの反復練習をしスムーズに早くスタイリングできるようにする
4	ショートレイヤーカットブローとソギ	全頭カットしハンドブローでシルエットを作っていくソギもレッスンしショートスタイルの毛先の処理をマスターする
5	ショートレイヤーマンズスタイル	メンズスタイルのシルエットを理解する
6	ショート刈り上げスタイル	刈り上げの姿勢シザーコームの動きを把握する
7	中間試験ミディアムレイヤーカットブロー	レイヤーのつながりやシルエットブローの完成度が審査項目
8	ワンレングスカットブロー	まっすぐカットする姿勢、基本をもう一度確認し作業する
9	ワンレングスカットブロー課題	試験同様に基本を振り返るために課題試験をする
10	マッシュルームカットブロー	丸さのシルエットを強調できる角度シェーブに注意するテンションのかけ方
11	マッシュレイヤーカットブロー	2つのスタイルが合体してのデザインになる理論を勉強する
12	マッシュプラス刈り上げカットブロー	刈り上げ部分の面積マッシュとのつながりを注意する
13	定期試験①フリースタイル	デザインシートの作成
14	試験前レッスン	自分の設計したスタイルが出来るか確認する
15	定期試験②フリースタイル	90分完成度の高いスタイルが審査項目

科目名 (英)	美容実習 I ワインディング Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内有美 荒屋健太 宮城裕美 本城実美 小坏亜矢子 榎本美咲
		授業形態	実習			
		時間数	120	有		
学科・コース	美容師科	単位	4			
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	目的:パーマをかけるための技術・習得できる 概要:細かい作業の繰り返しになるため、基本を大切にする					
到達目標	全頭のタイムを計って巻くことで用具の使い方や作業姿勢を模倣する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I		事前事後 学習と その内容	上巻き・下巻きの復習をし、指を慣らしておくとい		
教材	WD用具一式					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	用具の使い方・セッティングについて	セッティング7分 ブロッキングの取り方 上巻き・下巻き ウィッグの洗い方
2	オールパーパス	巻き方の復習 オンベースについて
3	オールパーパス	センターを巻く バックサイド・サイドのスライスを覚える
4	オールパーパス	スライスのテスト 全頭を巻く
5	オールパーパス	全頭50分でタイムを計る
6	中間試験について	全頭50分でタイムを計る 作品の確認をする
7	中間試験	オールパーパス全頭50分
8	国家試験スタイル	ブロッキングの取り方 1/2オフベースについて
9	国家試験スタイル	センターを10分でタイムを計る 全頭仕上げる
10	国家試験スタイル	センター10分 右側14分 左側12分 全頭40分でタイムを計る
11	国家試験スタイル	1分で2本巻く ブロックごと全頭のタイムを計る
12	国家試験スタイル	20分で右側12mm②残り20分で全頭仕上げる 全頭40分でタイムを計る
13	定期試験について	全頭40分 作品の確認
14	定期試験	全頭40分 作品の確認 次回の持ち物について
15	パーマをかける	オールウェーブのウィッグにパーマをかける

科目名 (英)	就職講座 I Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵・我妻優子・福田美幸
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容業界の仕事、職種内容の理解を深め、職業選択を決める。また社会人に必要な身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すにあたり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。			
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	クラスを知る	自己紹介を通して、クラスメートのことを把握し、言葉の花束を贈る。
2	クラス目標	1年後の自分、クラスを創造し目標を決め、またクラスルールを自分たちで決める
3	グループワーク	グループワークを通して、自分の意見を伝えること・他者の意見を吸収することを学ぶ。
4	日常行動スコアシート	日常行動スコアシートで自分の特性を知る。
5	職業研究	美容業の職種(スタイリスト、ヘアメイク、ブライダル)を理解する。
6	プロの職業人を目指すにあたって	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する。
7	中間試験	入学してからを振り返り、学べたこと・今後身につけていきたい事をまとめる。
8	国際教育について	海外の美容業界を理解する。
9	プロの職業人を目指すにあたって	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する。
10	就職・実習に向けて今から準備すること、重要事項を知る	就職・実習に向けて今から準備すること、重要事項を理解する。
11	プロの職業人を目指すにあたって	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する。
12	夏休みにあたっての重要事項	長期休暇を使って、準備しておきたい項目を理解する。
13	アンガーマネジメント	アンガーマネジメントを体験することで、自分自身をセルフコントロールできるようになる。
14	定期試験	美容業界やプロの職業人についての知識をアウトプットすることが出来る。
15	定期試験振り返り	わからない分野の洗い出しをし、必要な知識の整理をする。整理をすることで職業選択の決定につなげる。



科目名 (英)	美容総合技術 I デッサン Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	若井りさ
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	スタイリストとして各雑誌や広告、ディスプレイ、また企業のアパレルグッズの企画デザインなど多岐にわたる。					
目的 科目概要	ファッションイラストレーションの描き方やヘアデザインについて創造的な技術を学ぶ。その経験の中での技術が実務で必要不可欠となるデッサン力のポイントと提出するプレゼン書類の表現ポイントを習得する。					
到達目標	コンテストで発表する作品のデザイン由来と作業工程を一見で理解していただけるプレゼンテーション素材の完成					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	特になし		事前事後 学習と その内容	何にインスパイアを受けての表現であるか、そのイメージの方向を確認をしながら作り上げてゆくプロセスを体得しつつ、立体とは違う表現方法はを知ることは以降のプレゼンテーションとデザインコミュニケーションのツールのひとつになり得る。		
教材	プリントの配布					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	鉛筆の使い方と割り付けの方法	鉛筆の使い方、質感とタッチを知る
2	カラーリング	自分で描いたデッサンにカラーリングをする
3	割り付けと鉛筆の使い方の応用	顔、全身の割り付けの方法
4	仕上げ→提出	<u>デッサンとカラーリングを仕上げ提出</u>
5	グループワーク-1	グループに分かれ課題のイメージを考察し、必要な素材や画像などをリストアップする
6	グループワーク-2	使用素材の貼付位置 等のレイアウトを考える
7	グループワーク-3	カラーリングされたデッサン、使用素材、等を実際に描き込む(個人)
8	グループワーク-4	<u>作品仕上げと提出</u>
9	コンテストデザイン-1	コンテストイメージの決定
10	コンテストデザイン-2	デザイン画のレイアウト考察
11	コンテストデザイン-3	デッサンとカラーリング
12	コンテストデザイン-4	デッサンとカラーリング
13	コンテストデザイン-5	デッサンとカラーリング、資料レイアウトと貼付
14	コンテストデザイン-6	カラーリング、資料貼付
15	作品仕上げと提出	<u>作品仕上げと提出</u>

科目名 (英)	美容総合技術Ⅰ おもてなし Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	科目 責任者	塚本 博美
		授業形態	講義	有		
		時間数	30			
学科・コース	美容師科1年生	単位	1			
講師紹介	企業研修マナー講師・産業カウンセラー・サービス接客インストラクター・おもてなしマスター講師が就職現場に基づいた「おもてなし」が出来るよう細かく指導します。					
目的 科目概要	目的:おもてなしマスター検定合格 概要:職場の人間関係に於いて必要なコミュニケーション技術を身に付け、おもてなし検定習得を目指します。					
到達目標	おもてなしマスター検定資格試験に合格する。合格の為に必要な「おもてなしの心」「おもてなし型」「スキル」を身に付け、実践することが出来る。今まで知らなかった接客敬語をマスターし使えるようになる(小テスト)					
評価方法	出席率/中間試験と定期試験/授業態度/好感度(常に笑顔が出るか)/模擬試験の出来栄(過去問題)/おもてなし検定の可否 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート □ 作品					
教科書	「おもてなしマスター」資格検定教本		事前事後 学習と その内容	日々自分がお客様として店に行った際に常に「おもてなし」を意識する感覚を磨く。お客様の立場で満足・不満足の心境を知る。どんなサービスがお客様に喜ばれるのかを考える。好印象を持って貰えるように日頃から立ち居振る舞いに注意する。		
教材	プリント(補助教材)					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	おもてなし検定について	講義	オリエンテーション。授業の受け方のルール。自己紹介。「おもてなし」とは何かを知る。
2	ニコニコトレーニングとおもてなし体験について	講義	「ニコニコトレーニング」の実践。笑顔の重要性。「好感度の高い笑顔」を身に付ける。グループワーク「おもてなし体験」を話しあい、発表。
3	おもてなしの「心」について	講義	おもてなしマスター資格試験に就いてのレクチャー。おもてなしの定義に就いて理解する。おもてなしの心について理解する。
4	おもてなしの「5つの型」について	講義	おもてなしの5つの型を知る。グループワーク「聞く」と「聴く」の違い。アクティブリスニングを体得する。ロールプレイング。
5	傾聴トレーニングの実践	講義	リフレクティングの仕方を身に付ける(相槌)。うなずきの仕方を身に付ける。感情の受容の仕方を身に付ける。
6	おもてなしにおける時間管理について	講義	お客様をもてなすにあたって、余裕を持って準備することの大切さを理解する。お客様の立場・感情を踏まえた速い対応の大切さを理解する。お客様の立場・感情を踏まえた時間の長さを意識する。
7	中間テスト実施	講義	授業の振り返り、中間テスト(小論文あり)
8	環境設定について	講義	お客様に快適と安心を与える空間とはどんな空間でどんな要素が必要なのかを知る。事前調査により得たお客様の属性や個性を反映させた環境作りを考えることが出来る。五感を磨くトレーニング。
9	場面演出について	講義	感動を与えるような場面演出について理解する。おもてなしの意図を正しく伝える為のプレゼンテーションスキルを理解する。
10	イベント演出について	講義	場面演出・イベント演出スキルを理解する。変化に対応出来る力を身に付ける事の大切さを理解する。即断即決の柔軟な対応でお客様を不快にさせないアサーティブな自己表現を身に付ける。
11	予想外の変化について	講義	変化対応におけるポジティブシンキング・ストレスマネジメントの必要性を理解する。ポジティブシンキングの本質や自己のストレス傾向を知り、自分自身の人生を有意義に過ごせるような考え方を身に付ける。
12	なぜなぜシンキングについて	講義	おもてなしの5つの型を身に付ける為に有意義な共通スキルについて理解する。顧客の意中を射抜き、意表をつくおもてなしをするために身に付けて欲しいスキルを演習を通じて実践する。
13	共通スキルについて	講義	自分自身の心の状態や傾向を把握する。お客様を理解する手掛かりの1つとしてエゴグラム活用法を習得する。
14	コーチングについて	講義	お客様を目的地まで送り届けるためのコーチングスキルを活用できるようにする。模擬テスト(過去問題)をやって試験対策をする。
15	おもてなし検定の実施	講義/ 検定試験	「おもてなし検定」受験

科目名 (英)	メイクアップ I Make up	年次	1	実務経験	担当	足立祐季 杉本萌
		授業形態	演習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	化粧品メーカーのイベント等や広告媒体の第一線で活躍している現役ヘアメイクアップアーティストが基礎マナーを初めとする道具の使い方、メンテナンス方法、ベーシックメイクスキルを教える。□					
目的 科目概要	メイク製品の知識、道具の使い方、基礎となるプロセスを学ぶ					
到達目標	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に25分以内にモデルの骨格に合ったフルメイクを美しく仕上げる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	毎授業持参する		事前事後 学習と その内容			
教材	メイク道具一式、鏡、消耗品一式、汚物入れ、消毒用品、名札、筆記用具					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間定期試験時は学生証持参。					
<p style="text-align: center;"><b>授 業 計 画</b></p>						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	メイクアップツール、テーブルセッティング、メンテナンス方法を学ぶ	ブラシ、アイテム等の名称、役割、メンテナンス方法を学び、作業時の身だしを学習する				
2	スキンケア、ベースメイク	美しいベースメイクに必要な下地、ファンデーションの塗布の仕方、コンシーラーを使ったトラブルカバーを覚える。				
3	チーク、ハイライト、ローライト	顔の立体を理解し、血色づくりや凹凸感を出すのに必要なテクニックを覚える				
4	アイシャドウ	目の形にあったシャドウの入れ方、美しいグラデーションの作り方、色の選択方法を覚える				
5	アイライナー、アイラッシュ	ガタツキのない美しいラインの描き方、美しいカールを作るプロセスを覚える。角度に対しての印象の変え方、違いを覚える				
6	アイブロウ、リップ	アイブロウの毛の生え方を理解し、美しく描く、唇の輪郭に合わせて美しくルージュを引く				
7	中間試験40分フルメイク	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に40分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる				
8	クレンジング	適切なクレンジングを覚え、スキンケア効果を高めるプロセスを学習する				
9	ベースメイク強化	ベースメイクの仕上がりの完成度を上げる、コンシーラーワークの強化、コントロールカラーの強化				
10	アイブロウ強化	左右対象によりグラデーションを強化しアイブロウの仕上がりを強化する				
11	キュートメイク	キュートなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する				
12	クールメイク	クールなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する				
13	エレガントメイク	エレガントなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する				
14	タイムアップ練習	定期試験に向けてタイムアタックを行い、その中で道具の使い方や仕上がりの美しさにも気をつける習慣をつける				
15	定期試験 骨格に合ったフルメイクを25分	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に25分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる				

科目名 (英)	保健Ⅱ Health	年次	1年	実務経験	担当	氏家由美
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容師やヘアメイクアップアーティストとしての実務経験と保健の教員免許を持つ講師がわかりやすく講義をする					
目的 科目概要	美容師として必要な基礎知識である保健学を学び、お客様にどのような関わりがあるのかを学ぶ。					
到達目標	人体及び皮膚の構造と機能について理解する。美容師国家試験に合格できるような基礎知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数に8割満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験					
教科書	日本理美容教育センター発行「保健」	事前事後 学習と その内容	重要項目である章についてはまとめプリントにて復習していく。			
教材	教科書及び適宜DVDなど					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間期末試験時は学生証持参。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	皮膚科学第6章皮膚と付属器官の疾患	正常な皮膚と状態が崩れた場合の皮膚について理解を深める。(分泌異常による皮膚疾患まで)
2	皮膚科学第6章皮膚と付属器官の疾患	正常な皮膚と状態が崩れた場合の皮膚について理解を深める。(皮膚の腫瘍まで)
3	人体の構造及び機能第2章骨格器系	骨の構造や種類、骨格器系とそのはたらきについて学ぶ。
4	人体の構造及び機能第3章筋系	筋の種類と特徴、骨格筋のはたらきについて学ぶ。特に美容と関係の深い顔面筋や表情運動については詳しく学ぶ。
5	人体の構造及び機能第4章神経系	神経系のなりたちや中枢神経と末梢神経のはたらきについて学ぶ。特に自律神経の項目は重要ポイントである。
6	人体の構造及び機能第5章感覚器系	視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚、それぞれの感覚細胞の所在と感覚器の構造、はたらきを学ぶ。
7	後期中間試験	皮膚科学第6章～人体の構造及び機能第2章～第5章までの範囲(20問)解答解説により理解力を高める。
8	人体の構造及び機能第6章血液循環器系	血液のあらまし、血液循環のしくみについて学ぶ。
9	人体の構造及び機能第6章血液循環器系	血液の循環経路、心臓と血管のはたらき、リンパ管系のしくみとはたらきを学ぶ。
10	人体の構造及び機能第7章呼吸器系	呼吸器系のあらまし、気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動について学ぶ。
11	人体の構造及び機能第8章消化器系	消化器系のあらまし、消化管の仕組みについて学ぶ。
12	人体の構造及び機能第8章消化器系	消化管のはたらき、消化と物質代謝について学ぶ。
13	人体の構造及び機能第1～8章までの総合復習	人体の構造及び機能第1～8章までの総合復習。後期期末試験対策授業。
14	後期期末試験	後期期末試験 (25問)
15	後期期末試験フィードバック	後期期末試験 (25問)について解答解説、誤文訂正をし苦手分野を克服し理解を深める。

科目名 (英)	衛生管理Ⅱ Hygiene management	年次	1	実務経験	担当	渡邊 隆
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問ずつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科書において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習		
教材	都度					
特記事項						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	感染症の概要と歴史	感染症とはどういう物であるのかまた先人たちの功績について学ぶ
2	感染症における分類	感染症の3つの分類について分類の特徴とそれに含まれる感染症について学ぶ
3	病原微生物の病原体の違いと特徴	病原微生物であるウィルスや細菌について組織成分や生活環境についての違いについて学ぶ
4	感染症各論 その1	呼吸器感染症について学ぶ
5	感染症各論 その2	消化器感染症について学ぶ
6	感染症各論 その3	血液・接触感染、動物等から感染する感染症について学ぶ
7	中間試験	感染症全範囲
8	消毒の仕組みと	微生物を殺菌、消毒などの言葉の意味と消毒における仕組みを学ぶ
9	理学的消毒法	紫外線、煮沸、蒸気消毒について学ぶ
10	化学的消毒法 その1	エタノールおよび次亜塩素酸ナトリウムの消毒について学ぶ
11	化学的消毒法 その2	界面活性剤2種およびグルコン酸クロロヘキシジンの消毒について学ぶ
12	希釈法 計算方法	カルピスを使って消毒液の希釈法の実際を体験する
13	被消毒物に対して適した消毒法	消毒をするものに対し素材等により最適な消毒法を学ぶ
14	定期試験	感染症および消毒法の全範囲
15	定期試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	美容技術理論Ⅱ Technological Theory	年次	1	実務経験	担当	武田郁乃 小泉哲郎 工藤竹啓 高山弥恵
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる技術の理論、取り扱う器具、薬剤知識を学ぶ。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容技術理論Ⅰ	事前事後 学習と その内容	事前に「POINT BOOK」の指定ページの穴埋めを、教科書で調べて埋めてくること。			
教材	POINT BOOK(穴埋め)					
特記事項	「POINT BOOK」の穴埋めが事前に行われているという前提で授業を進めていきます。 必ず確認をしてください。					
授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	序章 教(～P13)	技術を学ぶにあたって必要な人体の名称や姿勢等を理解する。				
2	序章の復習 第1章 美容用具	教(P14～27)・P(P1～3) 序章の復習・美容用具の種類・名称等を覚える。				
3	第1章 美容用具	教(P28～33)・P(P4～5) 美容用具の種類、名称を覚える。				
4	第2章 シャンプーイング	教(P34～55)・P(P6～8) シャンプーの種類・メカニズム・成分・リンス、コンディショナー等を理解する。				
5	第2章 シャンプーイング 第3章 ヘアデザイン	教(P55～67)・P(P9～11) スカルトリートメントの目的、成分等を理解する。デザインにおける錯視を理解する。				
6	第3章 ヘアデザイン	教(P68～85)・P(P12～13) デザインの要素、原理等を理解する。				
7	中間試験	試験範囲(序章～第3章まで)				
8	第4章 ヘアカットイング	教(P87～114)・P(P14～16) カットの目的、ブロッキング、シザーズのカット技法等を理解する。				
9	第4章 ヘアカットイング 第5章 パーマネントウェーブ	教(P114～134)・P(P17～18) シザーズ、レザーのカット技法を理解する。パーマのメカニズム、成分、種類を理解する。				
10	第5章 パーマネントウェーブ	教(P135～156)・P(P19) パーマの手順、ワインディングの種類を理解する。				
11	第6章 ヘアセッティング	教(P159～180)・P(P20～21) ヘアセットの要素、カールの分類、ウェーブの名称を覚える。				
12	第6章 ヘアセッティング 第7章 ヘアカラーリング	教(P180～219)・P(P22～23) ウェーブの種類、ローラー、ブロー等の目的を理解する。カラー剤の種類等を理解する。				
13	第7章 ヘアカラーリング	教(P221～243)・P(P24) カラーリングの手順等を理解する。				
14	定期試験	試験範囲(第4章～第7章まで)				
15						

科目名 (英)	就職講座Ⅱ Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵・我妻優子・福田美幸
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容の仕事で、どのような知識・技術・接客が必要であるかを知る。また業界ではどのような人材が必要とされるかを知る。					
到達目標	美容の仕事を深く理解し、どのような知識・技術が必要で、業界はどのような人物が必要とされているか理解する。 希望職種内定のために、必要な就職マナーが備わっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容	積極的に参加し、人前で発表することの経験を積み重ね、みんなの前で自己PRが発表できるようになりましょう。			
教材	手帳・ポートフォリオ					
特記事項	必要なことはメモをとる					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ワクワクホーム	情報がたくさんある時代に必要な情報だけを集められるようになる。
2	就職スケジュール・履歴書・面接対策	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
3	自己紹介の練習	自己紹介の練習を行い、他人から見た自分の姿を把握する。
4	履歴書の免許・資格の書き方	履歴書の免許・資格の書き方を理解し、求人票の見方を学ぶ。
5	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
6	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
7	中間試験	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
8	面接対策	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
9	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
10	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
11	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
12	電話のかけ方	電話のかけ方を学び、印象の良い電話対応が出来るようになる。
13	面接先や説明会会場での所作	面接先や説明会会場での所作を学び、印象の良い対応が出来るようになる。
14	定期試験	履歴書の完成を通して、就職活動の準備を整える。
15	定期試験振り返り	春休みの就職活動について理解し、主体的に活動をするための手段を理解知る。

科目名 (英)	美容実習Ⅱシャンプー Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	井上秀浩 青柳光子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	①美容師として渋谷、表参道等を拠点とし様々なヘア雑誌の撮影やTV出演、海外での講師活動等美容師の可能性を追求する。また近年では、後世の育成に力を注ぐ。 ②海外に拠点を移し約10年間に渡り美容業に携わりその経験を生かし日本で出店を果たす。緻密な計算のカットは特に癖毛等コンプレックスを解消することで絶大な信頼を得る。					
目的 科目概要	技術と知識の向上を意識し、よりサロンワークなどに用いられる技術の習得ができ、社会人としてのマナーや意識も持つ事が出来る。					
到達目標	アシスタントとしての美容に関する知識を深め、よりレベルアップした接客業の意識やマナーを身につけることが出来、基本技術の向上をする事で実在するサロンを想定した、実践的な動き等を習得する事により求められる人材になることが出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験    ■ 実技試験    ■ 作品					
教科書	美容技術理論 1	事前事後 学習と その内容				
教材	適宜紹介する(動画、静止画等)					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	2シャンプーの理解と施術が出来る	1シャンプーの一連の動作を理解し、(サイド、バック共に)2シャンプーの手順を理解して、施術できる。引き続きブローまでの施術でクオリティを上げ様々な髪質にも対応できる技術を身につける事が出来る。
2	2シャンプーの施術の理解が出来る	1シャンプーの一連の動作を理解し、(サイド、バック共に)3シャンプーの手順を理解して、施術できる。引き続きブローまでの施術でクオリティを上げ様々な髪質にも対応できる技術を身につける事が出来る。
3	2シャンプーの理解と施術を深める(アイロン操作)	シャンプーの一連の動作を理解し、(サイド、バック共通)なおかつ2シャンプーの手順を理解して、施術できる。基本的なアイロン操作を理解し施術が出来る。
4	2シャンプーの理解と施術を深める(アイロン操作)	シャンプーの一連の動作を理解し、(サイド、バック共通)なおかつ2シャンプーの手順を理解して、施術できる。基本的なアイロン操作を理解し施術が出来る。
5	2シャンプーの施術の理解を深める(時間の意識)	2シャンプーの手順を理解しより細かい所まで行き届く事が出来き時間を意識しながら、施術しサロンワークに適した技術を身につけることが出来る。
6	2シャンプーの施術の理解を深める(時間の意識)	2シャンプーの手順を理解しより細かい所まで行き届く事が出来き時間を意識しながら、施術しサロンワークに適した技術を身につけることが出来る。
7	中間試験 2シャンプー20分、ブロー30分	(バックシャン、サイドシャン共通) 2シャンプーの手順の理解度、ブロー&スタイリングの理解度の確認
8	アシスタントの動き①(アイロン操作2人体制)	(バックシャン、サイドシャン共通) 2シャンプーの施術後2人体制でのブロー時の動き方の理解、様々な技法のアイロン操作の理解をしスタイルの作成の幅を持てる様になれる。
9	アシスタントの動き②(ワインディングのヘルプの仕方)	(バックシャン、サイドシャン共通) 2シャンプー施術後ワインディング時の意識、動き方を理解でき、アシスタントとしての働きを習得する。
10	ヘッドマッサージ	(バックシャン、サイドシャン共通) 2シャンプー後実践的ヘッドスパを理解し習得する事が出来る。
11	サロンワーク(店舗を考える)	今の現状の各サロンの状況等を調べて意識の改革や共通意識、就職への準備事項の確認などディスカッションをしてモチベーションの向上を図る。
12	サロンワーク(役割分担を考える)A	スタイリスト、アシスタントのバランスや動き方、お客様の動線を考えてプレオープンし改善点等を話しサロンワークに対する理解度を深める事が出来る。
13	サロンワーク(役割分担を考える)B	スタイリスト、アシスタントのバランスや動き方、お客様の動線を考えてプレオープンし改善点等を話しサロンワークに対する理解度を深める事が出来る。
14	定期試験(2シャンプー、ヘッドスパ、ブロー、スタイリング)A	お客様としての意識でサロンワークの中での自分の役割を状況下で判断して動く事が出来る。
15	定期試験(2シャンプー、ヘッドスパ、ブロー、スタイリング)B	お客様としての意識でサロンワークの中での自分の役割を状況下で判断して動く事が出来る。



科目名 (英)	美容実習カットブロー Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	坂平克成 本城美実
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	美容室経営23年講師歴9年現場の技術を実践者をもって指導、まず見て観て感じてもらう授業を意識して魅力ある授業を毎回心がけ一人一人フラットに生徒と接し美容の楽しさやりがいを指導し美容に進んでよかったと思えるように卒業してもらいたい					
目的 科目概要	この科目ではヘアカットブローの基礎基本理論を習得し人間の持つ頭髪の特徴を生かし理解しニーズに対応したデザインを表現しヘアデザインを通して夢と希望を与えられる事					
到達目標	自分の考えるデザインが形に出来ること、リクエストに応じたデザインが形に出来ること、技術の引き出しを持つこと、100のデザインをレッスンするより100のデザインを生み出す一つの公式を得ること後期はさらに前期の勉強した理論技術をアウトプットしてさらに技術の貯金を殖やすこと					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容技術理論	事前事後 学習と その内容	毎回の授業で5個覚えることがあって例えば2個理解できないとしたら次回の授業で必ず理解できるようにする			
教材	適宜紹介する					
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ロングレイヤーカットブロー	頭皮からの角度パネルの持ち方姿勢を把握してレイヤースタイルの髪の動きシルエットをつかむ
2	レイヤーカットブロー	ロールブラシを使ってボリューム動き流れを出しバランスの良いシルエットを作る
3	ミディアムレイヤーカットブロー	ブローの反復練習をしスムーズに早くスタイリングできるようにする
4	ショートレイヤーカットブローとソギ	全頭カットしハンドブローでシルエットを作っていくソギもレッスンしショートスタイルの毛先の処理をマスターする
5	ショートレイヤーメンズスタイル	メンズスタイルのシルエットを理解する
6	ショート刈り上げスタイル	刈り上げの姿勢シザーコームの動きを把握する
7	中間試験ミディアムレイヤーカットブロー	レイヤーのつながりやシルエットブローの完成度が審査項目
8	ワンレングスカットブロー	まっすぐカットする姿勢、基本をもう一度確認し作業する
9	ワンレングスカットブロー課題	試験同様に基本を振り返るために課題試験をする
10	マッシュルームカットブロー	丸さのシルエットを強調できる角度シェーブに注意するテンションのかけ方
11	マッシュレイヤーカットブロー	2つのスタイルが合体してのデザインになる理論を勉強する
12	マッシュプラス刈り上げカットブロー	刈り上げ部分の面積マッシュとのつながりを注意する
13	末フリースタイル	デザインシートの作成
14	レッスン	自分の設計したスタイルが出来るか確認する
15	定期試験フリースタイル	90分完成度の高いスタイルが審査項目

科目名 (英)	美容実習Ⅱ ワインディング Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	小坏亜矢子 榎本美咲
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:国家試験の目標タイムに近づけていく 概要:スピードアップのほか作品の確認も学んでいく					
到達目標	美容師科の国家試験に受かるための技術・知識を習得できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ	事前事後 学習と その内容	ロッドとペーパーで巻き込みを素早くできるようにしておくとい			
教材						
特記事項	同じことの繰り返しになるが目標を持ち取り組んでいく					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	前期のふりかえり	センター10分 右側14分 左側12分 全頭40分でタイムを計る
2	国家試験スタイル	全頭目標30分 センター8分 右側12分 左側10分
3	国家試験スタイル	タイムトライアル35分まで ブロックごとにタイムを計る
4	国家試験スタイル	タイムトライアル35分まで ブロックごとにタイムを計る
5	中間試験について	全頭30分 ブロックごとにタイムを計る 作品の確認
6	中間試験の流れ	全頭30分 作品の確認
7	中間試験	全頭30分 作品の確認
8	国家試験スタイル	2分で5本巻く タイムトライアル30分まで
9	国家試験スタイル	センター7分 右側10分 左側8分 全頭目標25分
10	国家試験スタイル	タイムトライアル25分まで ブロックごとにタイムを計る
11	国家試験スタイル	タイムトライアル25分まで ブロックごとにタイムを計る
12	国家試験スタイル	全頭25分 ブロックごとにタイムを計る
13	定期試験について	全頭25分 作品の確認 修正 練習
14	定期試験の流れ	全頭25分 作品の確認 修正 練習
15	定期試験	全頭25分 作品の確認

科目名 (英)	美容実習 I オールウェーブ・セッティング Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	宮城裕美 榎本美咲
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術をまなび国家試験に合格する力をつける					
	概要:国家試験科目である、第2課題オールウェーブ・セッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術の向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解、習得できるよう復習する。			
教材	マニュアル		指示があった時にウィックを洗う			
特記事項	マニュアルにたくさん細かい説明等を書き込む。理解できなかつた事は、その日に必ず質問し、理解できないままにしない。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	・教材について ・1段目馬蹄形を作る	・用具の説明、セッティング・ローションのつけ方・コームの使い方 ・ハーフウェーブの作り方 ・馬蹄形を作る
2	・1段目馬蹄形の復習 ・1段目スカルプチュアカールを作る	・正しい馬蹄形を作る*立ち位置、指の向きにきをつける ・スカルプチュアカールの作り方、スライス取り、ピンングを覚える(8分)
3	・スカルプチュアカールをタイムで作る ・2段目半円シェープとリッジを作る	・スカルプチュアカール6分 ・2段目かき出し、半円シェープ、リッジの作り方を覚える
4	・2段目リッジまでの復習 ・3段目の分け取りと右面ウェーブを作る	・スカルプチュアカール5分 ・馬蹄形～2段目リッジまで15分 ・3段目分け取りと右面ウェーブを覚える
5	・中間試験について ・右面ウェーブまでの復習 ・左面ウェーブを作る	・採点項目を把握する ・右面ウェーブまでを正確に作る23分 ・左面ウェーブ作り、左右のバランスを強化する
6	・中間試験について ・7段ウェーブ30分	・2段目リッジまで15分 / 3段目～左右7段ウェーブ15分 ・7段ウェーブ30分 中心の幅、縦ウェーブの幅、3段目分け取り強化
7	中間試験	試験内容:7段ウェーブ 30分 採点・評価・振り返り
8	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ25分
9	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・3段目スカルプチュアカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ20分 ・3段目スカルプチュアカールを正確に覚える(5分)
10	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・3段目スカルプチュアカールを作る ・4段目リフトカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・3段目スカルプチュアカールを覚える(5分) ・4段目リフトカールを覚える
11	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・3, 4段目カールのクオリティーアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ20分 ・3, 4段目カール(10分)
12	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・3, 4段目カールのクオリティーアップ ・5段目逆リフトカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ18分 / 3, 4段目カール10分 ・5段目逆リフトカールを覚える
13	・定期試験について ・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・3, 4, 5段目カールのクオリティーアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ15分 ・3, 4, 5段目カール15分
14	・定期試験について ・5段目カールまで30分	・7段ウェーブ15分 / 3, 4, 5段目カール15分
15	定期試験	試験内容:5段目逆リフトカールまで30分 採点・評価・振り返り

科目名 (英)	美容総合技術 I パーソナルカラー Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	矢田部倫子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	色彩関係の資格を有し現場経験豊富なカラーリストが、パーソナルカラー検定試験対策の授業展開のみならず、似合う色の活用方法なども含めた授業を実施する。					
目的 科目概要	目的: 似合う色を身につける事で、よりよく自己を印象づける「自分ブランディング」ができるようになるポイントを学ぶ。 概要: パーソナルカラーの探し方や取り入れ方の基礎、そのもとになる色彩学の基礎を習得する。自分自身の似合う色を実習の中で学んでいく。					
到達目標	自分には客観的にどのような色が似合うかを学び、「自分ブランディング」ができるようになる事で自分に自信を持ち、自己表現の幅を広げる。パーソナルカラー検定3級(2020年度夏季)の合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	色彩活用パーソナルカラー3級テキスト	事前事後 学習と その内容	授業の進行に合わせて、必要である場合は宿題として課題の予習・復習、問題集、プリントの課題を実施する。			
教材	3級問題集、新配色カード199b					
特記事項	はさみ、のり、筆記用具も持参してください。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、パーソナルカラーとP.I	授業内容、パーソナルカラー(似合う色)を知ることのメリットと概要を理解する。
2	色の三属性(色相、明度、彩度)、トーン一覧CW	色彩の基本である色の三属性(色相、明度、彩度)を学ぶ。トーン一覧CWについて理解する。
3	トーン(色の調子)	トーンの見え方と仕組みを理解する。身の周りの色や指定された色のトーンを答えられるようになる。
4	パーソナルカラーの基本、4シーズンのカラーパレット	パーソナルカラーの基本を学ぶ。4シーズンの色の特徴を見分け、色分類ができるようになる。
5	色素の種類とP.I、色素の特徴(肌、髪、目)	色素の種類とP.I、特徴(肌、髪、目)について理解する。自分の色素チェックを試みる。
6	色名、ドレーピング手法、似合う色と似合わない色	色名について理解し、ドレーピングでの顔映りの変化、効果と影響についてを知る。
7	中間試験、光について	1回目～6回目の授業内容を理解できているか確認試験を行う。光について理解する。
8	対比(明度、彩度、色相)、色の影響の現れやすさ	対比(明度、彩度、色相)について理解し、色の影響の現れやすさを確認する。
9	パーソナルカラー3級検定試験	注意事項の説明、試験時間60分
10	ドレーピング実習①	グループ分けをし、実際にドレープを使って色による顔色の変化(顔映り)を体感する。
11	ドレーピング実習②	前回到引き続き、全員ドレーピングをし、診断結果をまとめる。
12	ドレーピング診断結果のまとめ、似合う色の取り入れ方	ドレーピング実習を踏まえて、自分に似合う色の取り入れ方を理解する。
13	P.IIによる自分ブランディング	P.IIによる自分ブランディングを確認し、どのように活かしていきたいかを考える。
14	定期試験	前回までの授業内容を理解できているか確認試験を行う。
15	自分ブランディングプレゼンテーション	自分ブランディングについて、各自でまとめて発表する。

科目名 (英)	美容総合技術Ⅱ 専攻別 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	足立祐季
		授業形態	演習		有	
		時間数	60	曜日・時間		
学科・専攻	美容師科	単位	2			
講師紹介	雑誌、広告媒体の仕事をもくこなす現役ヘアメイクアップアーティストによる現場実践型の授業を行います。					
目的 科目概要	ヘアセットを行うにあたり、基本技術のスキルの他、ベーシックとなるヘアスタイルを学ぶ					
到達目標	ヘアの基本技術を習得し、ベーシックスタイルが作れるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験    ■ 実技試験    □ 作品					
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	授業時は必ずメモをとり、必ず復習をすること。		
教材	ヘア道具一式					
特記事項	授業時はエプロンを着用のこと					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ホットカーラー	基本となるアップ巻き、ダウン巻きを学ぶ
2	ストレートアイロン	ストレートアイロンのプロセスを覚える
3	コテ巻き	内巻き、外巻き、ミックス巻きを覚える
4	ピンング	基本の5点どめのプロセス、強度のある仕上がりを目指す
5	ピンング、逆毛	ピンングの復習、逆毛の立て方の基礎、役割を覚える
6	かぶせアップ	かぶせアップの基本構成を覚え美しく仕上げる
7	中間試験かぶせアップ25分	定期試験練習後、定期試験
8	編み込み	アイモデルにて裏編み、表編み、カチューシャの編み方を覚える
9	編み込みアップ	アイモデルにて編み込みのアップスタイルを作る
10	ツイストハーフ、ツイスト	アイモデルにてツイスト練習を行い、ハーフスタイスが作れるようになる
11	ルーズアップ	アイモデルにてルーズのアップを作れるようになる
12	あみおろし	編みおろしスタイルのプロセスを覚える
13	ゴム一束、ポニーアレンジ	基本のゴム結びを覚えて、ポニーテールのアレンジを覚える。
14	カールアップ	カールアップの基本構成を覚え美しく仕上げる
15	定期試験カールアップ30分	定期試験練習後、定期試験

科目名 (英)	美容総合技術 II 専攻別 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	井上秀浩、青柳光子
		授業形態	演習			
		時間数	60	有		
学科・専攻	美容師科	単位	2			
講師紹介	①美容師として渋谷、表参道等を拠点とし様々なヘア雑誌の撮影やTV出演、海外での講師活動等美容師の可能性を追求する。また近年では、後世の育成に力を注ぐ。 ②海外に拠点を移し約10年間に渡り美容業に携わりその経験を生かし日本での出店を果たす。緻密な計算のカットは特に癖毛等コンプレックスを解消することで絶大な信頼を得る。					
目的 科目概要	スタイリストになる為の基本的知識とアシスタントとしての意識と技術の確立をする事が出来る。					
到達目標	スタイリストのもとになる技術や知識を身につける事が出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験    ■ 実技試験    ■ 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材	美容技術理論 1					
特記事項						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	基本的なカットの構造が理解出来る	ワンレングス、グラデーション、レイヤーの基本構造が理解でき展開図が書ける様になる
2	ショートレイヤー、刈り上げの技術が出来る様になる	ショートレイヤー、刈り上げの基本構造が理解出来施術出来る様になれる。
3	パーマの基礎知識、基本的な技術が習得できる	パーマの基本的な構造が理解出来、実践的な巻き方の習得が出来る様になる。
4	パーマの応用、様々な巻き方の習得	色々バリエーションの巻き方が理解出来、スタイルに応じたパーマをかける事が出来る。
5	デザインシートの作成	展開図が書けていて工程を考えながらデザインを考える
6	デザインシートをもとにした中間試験への準備	展開図が書けていて工程を考えながらデザインを考える
7	中間試験	ウイッグでの思い描いたスタイルが再現できる。
8	ヘッドスパを習得できる	ヘッドスパの基本的な手技を習得できる事が出来る
9	ヘッドスパを習得できる	ヘッドスパの基本的な手技を習得できる事が出来る
10	最新のトリートメントを学ぶ	最新のトリートメントの知識を学ぶ事が出来る
11	人頭でのカットできる	展開図を書けてカットの構造を理解しながら生え方も認識しながら施術できる
12	カウンセリング	お客様の要望、生え方、髪質を判断し提案ができる様になる
13	カウンセリング	お客様の要望、生え方、髪質を判断し提案ができる様になる
14	定期試験	お客様の要望に応じたカットスタイリングができる
15	定期試験	お客様の要望に応じたカットスタイリングができる

科目名 (英)	美容総合技術Ⅱ 専攻別 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	足立祐季
		授業形態	演習		有	
		時間数	60	曜日・時間		
学科・専攻	美容師科	単位	2			
講師紹介	雑誌、広告媒体の仕事をもくこなす現役ヘアメイクアップアーティストによる現場実践型の授業を行います。					
目的 科目概要	ヘアセットを行うにあたり、基本技術のスキルの他、ベーシックとなるヘアスタイルを学ぶ					
到達目標	ヘアの基本技術を習得し、ベーシックスタイルが作れるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	授業時は必ずメモをとり、必ず復習をすること。		
教材	ヘア道具一式					
特記事項	授業時はエプロンを着用のこと					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ホットカーラー	基本となるアップ巻き、ダウン巻きを学ぶ
2	ストレートアイロン	ストレートアイロンのプロセスを覚える
3	コテ巻き	内巻き、外巻き、ミックス巻きを覚える
4	ピンング	基本の5点どめのプロセス、強度のある仕上がりを目指す
5	ピンング、逆毛	ピンングの復習、逆毛の立て方の基礎、役割を覚える
6	かぶせアップ	かぶせアップの基本構成を覚え美しく仕上げる
7	中間試験かぶせアップ25分	定期試験練習後、定期試験
8	編み込み	アイモデルにて裏編み、表編み、カチューシャの編み方を覚える
9	編み込みアップ	アイモデルにて編み込みのアップスタイルを作る
10	ツイストハーフ、ツイスト	アイモデルにてツイスト練習を行い、ハーフスタイスが作れるようになる
11	ルーズアップ	アイモデルにてルーズのアップを作れるようになる
12	あみおろし	編みおろしスタイルのプロセスを覚える
13	ゴム一束、ポニーアレンジ	基本のゴム結びを覚えて、ポニーテールのアレンジを覚える。
14	カールアップ	カールアップの基本構成を覚え美しく仕上げる
15	定期試験カールアップ30分	定期試験練習後、定期試験

科目名 (英)	美容総合技術Ⅱコース別 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	大和田一樹 堀江知代
		授業形態	演習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	メイクアップアーティストとしてスチール、ショーのメイクアップ、またメイクアップディレクターとして化粧品の開発・プロデュース・メイクセミナーの講師、自らTV出演など化粧品とメイクアップに関する様々な業務を歴任してきました。ここではメイクアップに必要な専門的な理論と技術を習得する授業を行います。					
目的 科目概要	目的:メイクアップデザインに関する専門的な理論と技術を学び、それらを基に様々なメイクアップイメージを作り上げる。 科目概要:形を変化させる技術を学び、それを活かすことで様々なメイクアップイメージを表現できることを理解する。					
到達目標	様々なメイクアップイメージを作り上げるために自在に形を変化させることができる。 限られた時間内で様々なメイクアップを仕上げるすることができる。 様々なメイクアップ表現に必要な専門的な技術を習得することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	ノート・筆記用具持参の事		事前事後 学習と その内容			
教材	学校指定のメイク教材					
特記事項	授業進行に支障をきたすので道具など忘れないようにお願いします。					
メイクアップは細かいプロセスが多いので、毎回必ずノートを取って欲しいです。授業で使用したスポンジ・パフなどは毎回必ず洗浄しておいて下さい。						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	フルメイク	フルメイクをしてみて今の段階での得意・不得意を知ることができる。
2	直線メイク	メイクアップで各パーツの直線的なラインの描き方を習得する。
3	曲線メイク	メイクアップで各パーツの曲線的なラインの描き方を習得する。
4	上昇メイク	メイクアップで各パーツの上昇的なラインの描き方を習得する。
5	下降メイク	メイクアップで各パーツの下降的なラインの描き方を習得する。
6	中間試験演習 フルメイク	フルメイクを時間内に仕上げる事ができる。 各パーツを正しく仕上げる事ができる。 中間試験の注意点を確認する。
7	中間試験 フルメイク	指定された内容のフルメイクを時間内に仕上げる事ができる。 各パーツを正しく仕上げる事ができる。【配点20点】
8	コントゥアリング	クリームカラーを使用してコントゥアリングを習得する
9	スカルメイク	生身の顔に骸骨に見えるようにメイクをしていく
10	老けメイク	人間の骨格や筋肉、肌の衰えをメイクアップで再現する
11	特殊メイク	傷・アザ・火傷などの特殊メイクを習得する
12	ゾンビメイク	スカルメイクや老けメイク、傷メイクを組み合わせるゾンビメイクを習得する
13	コスプレメイク	アニメのキャラクターをヘアメイクで再現する
14	定期試験演習 フルメイク	フルメイクを時間内に仕上げる事ができる。 各パーツを正しく仕上げる事ができる。 定期試験の注意点を確認する。
15	定期試験	指定された内容のフルメイクを時間内に仕上げる事ができる。 各パーツを正しく仕上げる事ができる。【配点50点】



科目名 (英)	美容総合技術Ⅱコース別 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	鈴木由美子
		授業形態	演習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	美容師免許・美容技術理論教員資格有・コスメコンシェルジュ・化粧品成分検定上級スペシャリスト・日本ウェディングスタイリスト協会(JWSA)認定講師 長きにわたり美容業界・ブライダル業界に携わる講師が、現場での実体験を交えながら、知識・技術をわかりやすく授業を行う。					
目的 科目概要	ブライダルファッションスタイリストについてを学ぶ。					
到達目標	ブライダルファッションスタイリストの業務を理解し実践できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	JWSA①	事前事後 学習と その内容				
教材						
特記事項						
授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	オリエンテーション	お客様に、よりよい結婚式を行っていただくために結婚とはどういうことかを理解し、説明できるようになる				
2	JWSAテキスト①	接客や仕事をするにあたってのスキルを身につけ実践できるようになる。ファッションスタイリストとしてのサロン業務を身につけ、実践できるようになる				
3	JWSAテキスト①	フォーマルとは何かを理解し、説明できるようになる				
4	JWSAテキスト①	新婦のブライダルインナーの必要性などを理解し、説明でき、実践できるようになる				
5	JWSAテキスト①	新婦の洋装、和装の基礎知識を身につけ、説明できるようになる				
6	JWSAテキスト①	新郎の洋装、和装の基礎知識を身につけ、説明できるようになる				
7	中間試験	筆記試験				
8	JWSAテキスト①	フィッティング(メンズ洋装)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる。 フィッティング(新婦洋装)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる				
9	JWSAテキスト①	フィッティング(メンズ和装)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる。 フィッティング(新婦和装)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる				
10	JWSAテキスト①	フィッティング(留袖、振袖など)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる。 縫製、スキルチェック				
11	JWSAテキスト①	和装、洋装のアattend業務を身につけ、実践できるようになる				
12	フラワー業務(ブーケをつくる。)	フラワーアレンジ(ブーケ)				
13	フラワー業務(ブーケをつくる。)	フラワーアレンジ(ブーケ)				
14	フラワー業務(ヘアードをつくる。)	フラワーアレンジ(ヘアード)				
15	定期試験	筆記試験				

科目名 (英)	美容総合技術Ⅱコース別 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	鈴木由美子
		授業形態	演習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	美容師免許・美容技術理論教員資格有・コスメコンシェルジュ・化粧品成分検定上級スペシャリスト・日本ウェディングスタイリスト協会(JWSA)認定講師 長きにわたり美容業界・ブライダル業界に携わる講師が、現場での実体験を交えながら、知識・技術をわかりやすく授業を行う。					
目的 科目概要	ブライダルファッションスタイリストについてを学ぶ。					
到達目標	ブライダルファッションスタイリストの業務を理解し実践できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	JWSA①	事前事後 学習と その内容				
教材						
特記事項						
授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	オリエンテーション	お客様に、よりよい結婚式を行っていただくために結婚とはどういうことかを理解し、説明できるようになる				
2	JWSAテキスト①	接客や仕事をするにあたってのスキルを身につけ実践できるようになる。ファッションスタイリストとしてのサロン業務を身につけ、実践できるようになる				
3	JWSAテキスト①	フォーマルとは何かを理解し、説明できるようになる				
4	JWSAテキスト①	新婦のブライダルインナーの必要性などを理解し、説明でき、実践できるようになる				
5	JWSAテキスト①	新婦の洋装、和装の基礎知識を身につけ、説明できるようになる				
6	JWSAテキスト①	新郎の洋装、和装の基礎知識を身につけ、説明できるようになる				
7	中間試験	筆記試験				
8	JWSAテキスト①	フィッティング(メンズ洋装)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる。 フィッティング(新婦洋装)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる				
9	JWSAテキスト①	フィッティング(メンズ和装)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる。 フィッティング(新婦和装)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる				
10	JWSAテキスト①	フィッティング(留袖、振袖など)の基礎知識を身につけ、実践できるようになる。 縫製、スキルチェック				
11	JWSAテキスト①	和装、洋装のアattend業務を身につけ、実践できるようになる				
12	フラワー業務(ブーケをつくる。)	フラワーアレンジ(ブーケ)				
13	フラワー業務(ブーケをつくる。)	フラワーアレンジ(ブーケ)				
14	フラワー業務(ヘアードをつくる。)	フラワーアレンジ(ヘアード)				
15	定期試験	筆記試験				